

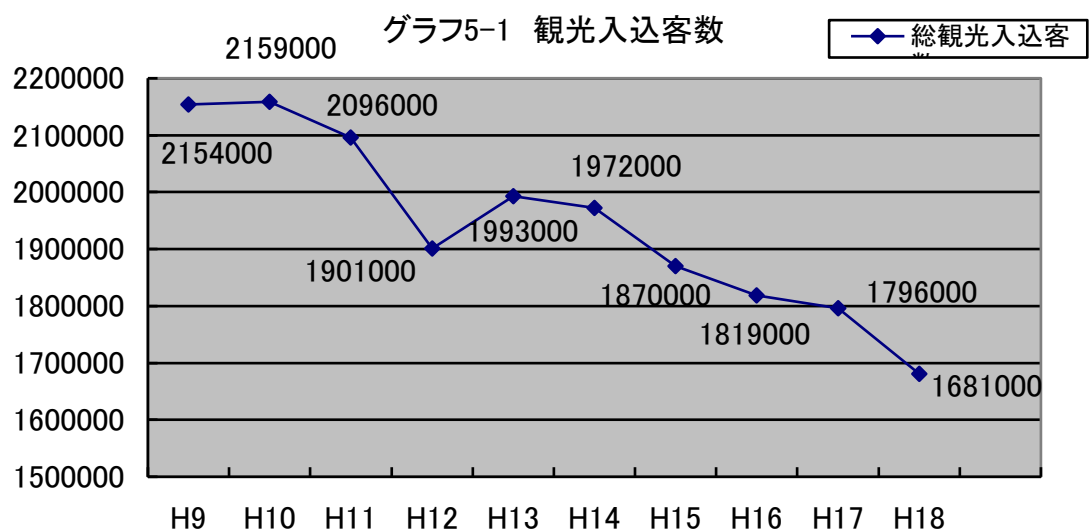
第5章 網走市の観光

内山孝太

5.1. 観光事業の実態

季節によって自然の表情が変化するところが見所な網走市の観光事業（イベント）は季節を問わず、実にバラエティ豊かで数も豊富である。網走市観光協会が推進している事業は網走市の郷土性を存分に生かしたものとなっており、多くの観光客が毎年、網走市に足を運ぶ。しかし、観光入込客数は年々減少傾向あり網走市観光協会は観光客の入り込みに力を注いでいる。網走市の観光といえば、流氷や網走監獄のイメージが強いが、乗馬やワカサギ釣りといったアウトドア体験も盛んに行われている。しかし、流氷の集客数への依存は否めず、「流氷といえば網走」、「網走といえば流氷」と言われる由縁はそこにあるだろう。

観光入込客数は1997年以降、1998年の2159000人をピークに年々減少している。このうち、2006年では道外客が921188人（54.8%）で道内客が759812人（45.2%）であった。さらに、宿泊客は1161571人（69.1%）、日帰り客は519429人（30.9%）という結果になった。季節別に見ると、春（4.5月）は156000人（9.3%）、夏（6.7.8.9月）は710000人（42.2%）、秋（10.11月）は207800人（12.4%）、冬（12.1.2.3月）は607200人となっている。

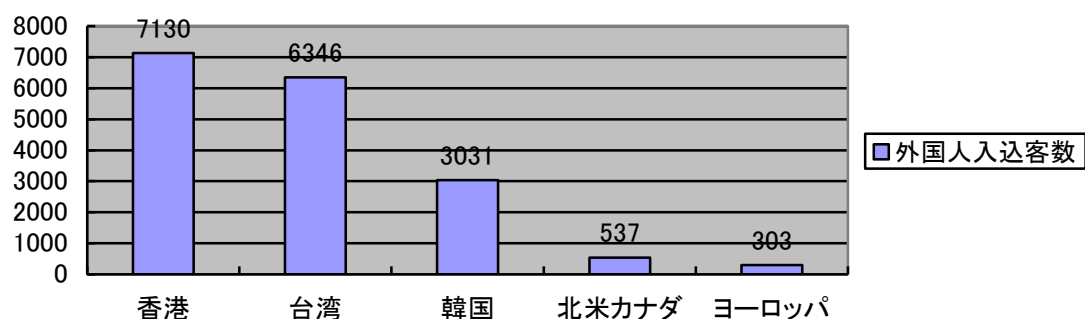


（単位：人）

出典：網走観光 HP

外国人の観光入り込み客数は 1997 年以降 2006 年が 19587 人でピークとなっている。その中で、アジア諸国が多く、香港は 7130 人（36.4%）、台湾は 6346 人（32.4%）、韓国は 3036 人（15.5%）となっており、アジア全体では 18451 人（94.2%）となっている。

グラフ5-2 外国人観光入込客数



（単位：人）

出典：網走観光 HP

5.2. 流氷観光

オホーツク海の代表的な冬の風物詩「流氷」。日本では唯一このエリアでしか楽しむことができない、自然が作り出す芸術。

歩いたり、潜ったり、クルージングしたりと色々な形で楽しむことができ、網走に足を運んだときには、おすすめのスポットである。

5.2.1 流氷観光砕氷船「おーろら」

多くの観光客の網走観光の目的といえは流氷観光砕氷船「おーろら」であろう。オホーツク海では、1 月から 3 月頃の間には流氷が見られ、「おーろら」に乗って流氷観光ができ、運がよければアザラシなどに遭うことができる。「おーろら」の利用客数のピークは、2003 年の 203000 人であるが 2007 年には 101000 人にまで減少した。流氷観光砕氷船「おーろら」は、観光を目的として建造された砕氷船である。砕氷船本来の目的は、氷海にて一般船舶の航路を切り開きながら、旅客や物資等を運搬することである。その中で港から港を結ぶ、定期航路ではなく、遊覧（観光）を目的とした砕氷船は「おーろら」が世界初となる。

流氷観光砕氷船「おーろら」の運賃は以下の通りである。

図 5-1 流氷観光砕氷船「おーろら」



出典：網走観光 HP

	個人	団体（15 名以上）
大人	3300 円	2970 円
小学生	1650 円	1490 円

※ 消費税込みの料金

※ 中学生以上は大人料金、幼児は無料

さらに、「おーろら」は南極観測船「しらせ」の設計と建造実績のある「日本鋼管（設計当時・現ユニバーサル造船（株）」へ設計を依頼し、北海道室蘭市の「檜崎造船」にて建造された。「おーろら」は 1990 年 9 月進水、同年 11 月完成、翌年 1991 年 1 月より網走港を基地として運航を開始、年々増加するお客様への対応も 1 隻では限界になり、1994 年 10 月姉妹船「おーろら 2」が進水。翌 1995 年 1 月完成、同年同月、現在の 2 隻体制で運航を開始した。

5.2.2 砕氷船

砕氷船は、氷海中で商船、漁船の航路を確保することを目的として使用される船舶で、通常の船舶の造りと違い、以下のような特徴を持っている。

1. 砕氷能力を十分発揮できるよう、船首部分は氷に乗りかかり易い形状になっている。また、氷海中でも自在に操船できると同時に、一般船が通るための航路幅を確保できるよう船体全長に比べて幅が広い「ズングリ型」の船型になっている。
2. 砕氷の際に受ける大きな外力に耐え得る堅牢な船体構造になっている。
3. 砕氷するために多大なパワーを必要とするため、通常の同型船の船体に比べて、出力の大きな主機関を備えている。

※ さらに、流氷観光砕氷船「おーろら」ならではの改良工夫

1. 「おーろら」は船首により氷に乗りかかり船の重みで砕氷する構造のため船底内部には最大で約 100 t の海水を取り入れて溜めることができる「バラストタンク」を配している。これを使用することによって船の重みがさらに加わり砕氷能力を高めることが可能である。
2. 「おーろら」の出力は、ほぼ同じ大きさの一般船が「1103kw（1500 馬力）」に対して、おおよそ倍の「2206kw（3000 馬力）」ほどある。「おーろら」はオホーツク海の厚さ 50cm の氷板を 85%の出力で 3 ノットの速度で連続砕氷しながら進むことができる。
3. 「おーろら」の客室は冬季低温下での航海に備えて側壁を始め、十分な防寒設備が施されている。大型の窓も、保温やガラスの曇り防止を考慮して、厚板硬質ガ

ラス（厚さ 12mm）を二重にして、その間に空気の層（厚さ 6mm）を挟みこんだペアガラスを使用している。

5.3. クリオネ

その姿が羽根を広げた天使のようだからと「流氷の天使」と呼ばれているクリオネ・リマキナ。和名は「はだかかめがい」という。巻貝の仲間である。しかし、まったく貝殻をもっていない。同じ仲間の巻貝は一般に足を使ってはって歩くが、クリオネは足がヒレのようになっており、翼足といわれ、その足を動かして浮遊生活をしている。

赤く見えるのは生殖腺や中腸腺である。流氷が来る冬のシーズンは北海道では、必ず話題にのぼるクリオネ。流氷の下に普通はいるが、異常発生した時などは、オホーツク海沿岸の海岸で簡単に見られたりして、それがまたニュースになったりする。

最近「流氷の天使」から「流氷の妖精」とニックネームが変わりつつある。実はそんなステキな名前をもらっておきながら、肉食性で同じくらいの大きさの浮遊する貝をたべてしまう。「意外と凶暴だ」と、つい口にしてしまう人も多い。クリオネ自身は大群で住んでいるので鮭・マスの魚類、くじら、アザラシなどの餌になる。

1 月下旬ごろから流氷とともに北極圏からオホーツク海沿岸にやって来るクリオネは、体長は 0.5 センチから 3 センチになるものまでが北海道オホーツク沿岸では確認されている。北極圏ではなんと 8 センチものクリオネが確認されてもいるが、そんなに大きいとかわいくないであろう。寿命は 1 から 2 年とは言われているが、まだはっきりとした生態が解っていない不思議な生物なのだ。

半透明でかわいい角をはやし、翼をヒラリヒラリとさせながら氷の海を、まるで飛んでいるかのように優雅に泳ぐのだが、これも個体差がかなりあり、水族館や浜辺で観察されたクリオネの中には、泳ぎがどう見ても上手くないクリオネもいる。どんな動物も、個体差は大きいのだと思う。名前の学名クリオネは、ギリシャ神話の「海の天使」を意味する「クレイオ」に由来している。

図 5-2 クリオネ



出典：Yahoo 画像

5.4. 観光スポット

①網走監獄

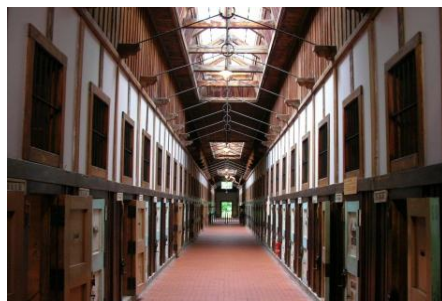
博物館 網走監獄は、明治時代から実際に網走刑務所で使用されてきた建物を保存公開している歴史野外博物館である。

もっとも古い建物は、網走に刑務所がやってきて6年後、今から109年も前の建物で、現在と違って木を製材するのも、機械を使わずに手作業で行ったこと、太い梁や柱には、囚人達が削ったあとが荒く残っている。

更に、現在の網走刑務所の収容者が食べている食事メニューを再現した「体験監獄食」も提供している。

網走監獄の特徴としては、総面積17万平方メートル、展示施設数23施設、登録有形文化財4施設、資料総数5500点である。

図 5-3 網走監獄



出典：Yahoo 画像

②モヨロ貝塚

モヨロ貝塚は、1913年9月、考古学に強い関心をもっていた函館の理髪師米村喜男衛氏が発見する。網走川河口左岸の平地の地中から、従来とは全く異なった千年ほど前の遺跡が発掘された。アイヌ人とも、現存するどの民族とも違う彼らを、当時の付近の最寄村から名をとり「モヨロ人」と呼び、貝塚も「モヨロ貝塚」と名づけられた。

図 5-4 モヨロ貝塚



出典：モヨロ貝塚遺跡 HP

③網走市立郷土博物館

オホーツク海沿岸の自然と歴史がテーマの博物館。1936年築の赤いドームの西洋館は歴史を感じる建物だ。モヨロ貝塚から出土した骨や土器のほか、海、山の動物や野鳥などの資料を展示している。

図 5-5 網走市立郷土博物館



出典：MAPPLE 観光ガイド

5.5. アウトドア

①乗馬体験

この牧場には、馬小屋がなく、55頭の馬が暮らしている。馬に乗って、山、川、森、海などを散歩するホーストレッキングが人気。料金は場内一周の乗馬体験で1000円、コースによって3000～13000円のコースも。

図 5-6 乗馬体験



出典：網走原生牧場観光センター

②ワカサギ釣り

12月下旬から3月下旬に網走湖でワカサギ釣りができる。その場で釣って食べるワカサギは格別であろう。料金は遊漁料が大人800円、小学生400円、貸し竿は150円、仕掛けは250円、エサは200円、穴あけは300円、貸しイスは100円である。

図 5-7 ワカサギ釣り



出典：網走観光協会

5.6. 催し物

①あばしりオホーツク流氷まつり

流氷で有名な厳寒の網走港で開催される冬の祭典。迫力満点の大雪像や氷彫師が精緻に彫りあげた氷像をはじめ、大小さまざまな氷雪像が並び、夜にはライトアップされ幻想的ムードを醸し出す。ステージでは歌謡ショーやキャラクターショーなどを開催。

図 5-8

あばしりオホーツク流氷まつり



出典：旅なび！網走

②あばしりオホーツク夏まつり

オホーツク網走の短い夏を楽しむ市民参加のお祭り「あばしりオホーツク夏まつり」。中心商店街が歩行者天国になり毎年1000人もが踊る「流氷おどり」や市内の小・中・高生が参加する「音楽大行進」も行われる。圧巻は「花火大会」。港ならではの尺球の迫力が体感でき、オホーツクの海と空が美しい大輪の花火で彩られる。

図 5-9

あばしりオホーツク夏まつり



出典：旅なび！網走

③あばしり道の駅夕市まつり

道の駅「流水街道網走」で『あばしり道の駅夕市まつり』。
2009 年 1 月 19 日にオープンしたばかりの道の駅「流水
街道網走」で、地元の農水産物の販売やビールパーティー、
地元食材の炭火焼きなどが行なわれる。

図 5-10
あばしり道の駅夕市まつり



出典：網走観光協会

参照 HP

- ・ 網走観光 HP

<http://www.city.abashiri.hokkaido.jp/030shisei/010shisaku/files/chokikososhiryo.pdf#search='網走市 観光入込客数'>

- ・ 網走観光協会 HP

<http://www.abakanko.jp/event/wakasagi/wakasagi.html>

- ・ 旅なび！網走

http://abashiri.jp/tabinavi/01events/event_ryuhyomatsuri.html

- ・ プチたび

<http://puchitabi.jp/09/07/post-2955.html>

- ・ PARADISO HP

<http://www.kobemap.com/bo/kapa/hadakakame.html>

- ・ Yahoo 画像

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?rkf=2&ei=UTF-8&p=%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%82%AA%E3%83%8D>

- ・ 網走監獄 HP

<http://www.kangoku.jp/>

- ・ モヨロ貝塚遺跡 HP

http://inoues.net/ruins/moyoro_kaiduka.htm

- ・ MAPPLE 観光ガイド

<http://www.mapple.net/spots/G00100135001.htm>

- ・ 北海道ツアーランド HP

<http://www.hokkaidotour.net/special/numberback/ryuhyo/>